

製品名: 魚ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10993**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	SH3PXD2A SH3PXD2A; FISH; KIAA0418; SH3MD1; TKS5; SH3 and PX domain-containing protein 2A;
別名	Adapter protein TKS5; Five SH3 domain-containing protein; SH3 multiple domains protein 1; Tyrosine kinase substrate with five SH3 domains
遺伝子 ID	9644.0
SwissProt ID	Q5TCZ1
免疫原	ヒトの魚類の N 末端領域から得られた合成ペプチド。

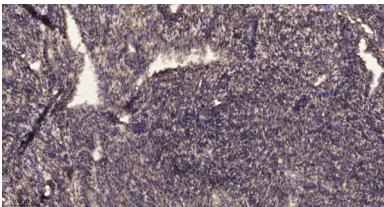
背景

ドメイン:5番目のSH3ドメインは、ADAM12、ADAM15、およびADAM19との結合を媒介します。ドメイン:PXドメインは、ポドソームの局在、およびホスファチジルイノシトール 3-リン酸 (PtdIns(3)P) およびホスファチジルイノシトール 3,4-二リン酸 (PtdIns(3,4)P2) の結合に必要です。機能:ポドソームの形成、細胞外マトリックスの分解、および一部の癌細胞の浸潤に必要です。ホスファチジルイノシトール 3-リン酸 (PtdIns(3)P) およびホスファチジルイノシトール 3,4-二リン酸 (PtdIns(3,4)P2) に結合します。ADAM12と関連して、 β アミロイドペプチドの神経毒性効果を媒介します。PTM:SRCによってリン酸化されるチロシン。リン酸化はタンパク質の局在において調節的な役割を果たします。PXドメインと3番目のSH3ドメインの分子内相互作用によりタンパク質は細胞質内に維持され、リン酸化によりこの相互作用が破壊され、タンパク質が細胞質から膜周領域に再分布します。DNA損傷(おそらくATMまたはATRによる)時にセリンがリン酸化される。類似性:SH3PXD2ファミリーに属する。類似性:1つのPX(フォックス相同)ドメインを含む。類似性:5つのSH3ドメインを含む。細胞内局在:正常細胞では細胞質内にあり、SRC形質転換細胞ではポドソームに局在する。サブユニット:ADAM12、ADAM15、ADAM19と相互作用する。組織特異性:いくつかの癌細胞株、特に浸潤性乳癌および悪性黒色腫に見られる。ドメイン:5番目のSH3ドメインは、ADAM12、ADAM15、およびADAM19との結合を媒介する。ドメイン:PXドメインは、ポドソームへの局在、およびホスファチジルイノシトール 3-リン酸 (PtdIns(3)P) とホスファチジルイノシトール 3,4-二リン酸(PtdIns(3,4)P2)。機能:ポドソーム形成、細胞外マトリックスの分解、および一部の癌細胞の浸潤に必要である。ホスファチジルイノシトール 3-リン酸(PtdIns(3)P)およびホスファチジルイノシトール 3,4-二リン酸 (PtdIns(3,4)P2)に結合する。ADAM12と結合して、 β アミロイドペプチドの神経毒性効果を媒介する。PTM:SRCによってリン酸化されるチロシン。リン酸化はタンパク質の局在において制御的な役割を果たしている。PXドメインと3番目のSH3ドメインとの分子内相互作用によりタンパク質は細胞質内に維持され、リン酸化はこの相互作用を阻害することで、タンパク質は細胞質から膜周縁領域へ再分布する。DNA損傷時にセリンがリン酸化されます(おそらくATMまたはATRによる)。類似性:SH3PXD2ファミリーに属します。類似性:1つのPX(phox相同)ドメインを含みます。類似性:5つのSH3ドメインを含みます。細胞内局在:正常細胞では細胞質内にあり、SRC形質転換細胞ではポドソームに局在します。サブユニット:ADAM12、ADAM15、ADAM19と相互作用します。組織特異性:いくつかの癌細胞株、特に浸潤性乳癌および悪性黒色腫に見られます。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト子宮の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、45分)。